

東日本大震災子ども舞台支援事業

# 「3.11を忘れない」

## -あれから5年、被災地の今とこれから-

2016年3月12日(土)

開演 13:00

(開場 12:45)

被災地の今を知ることで

見えてくるもの —

今の子どもたちとどう向き合い

なにが出来るのか

これからの支援の在り方とは・・・

会場 芸能花伝舎

東京都新宿区西新宿6-12-30

講演

### 「福島の今、現状は」

震災当時の問題、5年たった現状、そして今後の課題・復興とは。

講師 澤田修 (劇団風の子東北)



### リーディング 「海から来た子」

震災に向き合った岩手発の朗読劇を、首都圏の創造団体がチャレンジする。

作 柏葉幸子 (岩手日報社刊)  
 脚色 坂田裕一  
 構成・演出 大瀧弘幸 (劇団風の子)  
 ピアノ 菊池大成  
 出演 井上一馬 (イツツフォーリス)  
 けんけんくじら (フリス)  
 鳥居さとみ (ゆいぐるみ人形劇シロコロン)  
 田中愛実 (イツツフォーリス)

シンポジウム

### 「こどものいのちとこころの話」

子どもたちの様々な「今」と向き合うパネリストたちが、子どもの「未来」を語り合う。

パネリスト 神林俊一  
 栗林知絵子  
 コーディネーター 洪沢やこ



### 特別招聘公演 「平行螺旋」 —へいこうスパイラル—

劇団もしょこむ  
(岩手県釜石市)

作 こむろこうじ

えんえんつづく、仮設の暮らし。  
ぐるぐるまわる、姉妹の気持ち。

仮設住宅で暮らす姉妹の日常と希望を描いた二人芝居。



◆主催 子どものための舞台芸術創造団体の会

日本児童・青少年演劇団協議会  
 特定非営利活動法人 日本青少年音楽鑑賞協会  
 一般社団法人 全国人形劇協議会  
 全国児童・青少年演劇協議会  
 公益社団法人 日本児童青少年演劇協会  
 アシテジ国際児童青少年演劇協会/日本センター

◆後援 公益社団法人 日本芸術家演劇家団体協議会

子どもと文化全国フォーラム  
 NPO法人日本ウニマ(国際人形劇連盟)  
 日本演劇教育連盟  
 日本人形劇人協会  
 文化芸術による復興推進コンソーシアム

この支援事業は、クラウドファンディング  
(インターネットを介して個人からの支援  
金を集めるサービス)READYFOR?に取り  
組んでいます。ご協力をお願いします。



会場  
A1  
会議室

講演  
「福島の今、現状は」  
13:00~

2011年東日本大震災が起こった当時の福島の問題とは、5年たった今その問題は怎么样了のか。2016年現在の、健康・産業・原子力発電・行政・住宅・学校・医療・新設といった様々な観点から福島の現状をお話しいたします。現状から見えてくる今後の課題、福島の復興とは・・・。



澤田 修(劇団風の子東北)  
福島県喜多方市生まれ。2000年に企業組合劇団風の子東北を設立し、代表理事に就任。震災以降、子どもたちの心の復興に向けて福島県を中心に被災地での公演等の実施に奔走。自らが原案・脚本・制作を担当した「フクシマ発」の公演や講演活動を積極的にやっている。

リーディング「海から来た子」14:00~

菜の花畑にすぶ濡れの少女が一人。記憶と声を失っていたが、ある家族と出会い、海から来た子「海来(みく)」と名付けられる。少女と、ある家族の再生物語。

作 柏葉幸子(岩手日報社刊)  
脚色 坂田裕一  
構成・演出 大淵弘幸(劇団風の子)  
ピアノ 菊池大成

出演



井上 一真  
【イッソフオーケストラ】



けんけんべい  
【フリー】



風居さとみ  
【おしゃべり大団圓】【イッソフオーケストラ】



田中 愛実

シンポジウム  
「こどものいのちとこころの話」  
14:30~

震災後、被災地で「遊び」を通して子どもに寄り添い見えてきた事は決して被災地だけで起きている問題ではないと聞きます。また最近報道されている「子どもの貧困」の問題も他の様々な子どもを取り巻く環境につながっています。舞台芸術に関わり「子どもの今と未来」を豊かにしたいと願う私たちはお二人のパネリストの実践から今の子どもを学び、未来を考えて行きたいと思えます。

パネリスト



神林俊一(一般社団法人プレーパークス)  
中学時代、いじめ・不登校の最中に、世田谷区のプレーパークに出会う。2011年4月、被災地の住民と子どもの遊び場「あそびーばー」を開発。その後4年の寄り添いを重ね、多様化していく子ども環境を変えるための「(一社)プレーパークス」を設立。気仙沼在住。



栗林咲子(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク)  
地域の子どもの地域で見守り育てることをコンセプトに平成23年に「NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」設立。池袋本町プレーパーク、子ども食堂、無料学習支援など活動中。自他共に認める「おせっかいおばさん」子どもの居場所を点化することを目指している。

コーディネーター



決沢やこ(布紙芝居「なにめの屋」役者)  
20年前の阪神淡路大震災では、世田谷区の冒険遊び場(プレーパーク)のスタッフとして「子どもの遊び場支援」に入った。その後劇団風の子を経て、なにめの屋として全国各地を飛び回る。2011年以降、被災地で活動する若者に学ぶ学習会に取り組んでいる。全国児童・青少年演劇協議会会員。

会場  
B3  
会議室

特別招聘公演  
劇団もしよこむ「平行螺旋—へいこうスパイラル—」17:30~

終演後、  
アフタートークあり。

作 こむろこうじ

震災で両親や家、大切なものを全て失ったとある姉妹。しっかり者の姉、馨(小笠原景子)と不器用な妹、洋海(菅野結花)は2011年夏、仮設住宅に入居する。被災地の「内」「外」の温度差、震災の風化、遅れ続ける住宅再建、不安定な雇用…。葛藤の中で生きる2人の、2016年3月までの5年間を描く。  
姉妹が見いだす幸せのかたちとは—

劇団もしよこむ

岩手県釜石市を拠点に活動しているアマチュア劇団。2015年2月に結成。市民有志を中心とした個性豊かなメンバーで立ち上げ、3月28日に市内の仮設住宅で旗揚げ公演を行う。旗揚げ作品『平行螺旋—へいこうスパイラル—』は、長期化する仮設住宅の暮らしと、姉妹の恋しみや不安、小さな喜びを表現した二人芝居。岩手県内で活動中の作家こむろこうじが被災地の現状を現地から発信したいと釜石のために書き下ろした。



制作スタッフ

新井浩介 大沢直 大淵弘幸 高坂諭 清水治信 竹内裕子  
多田純也 千島清 土屋友紀子 永野むつみ 長谷詔夫  
磯崎万喜男 三宅伸哉 渡辺希子

協力参加券 3,000円(4歳以上有料 全席自由席)

本公演の収益は、「子どものための舞台芸術創造団体の会 東日本大震災子ども舞台芸術支援対策室」が、被災地で行うランチア公演のための支援金とさせていただきます。

【お申込み・お問合せ】

子どものための舞台芸術創造団体の会  
東日本大震災子ども舞台芸術支援対策室  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸術花伝舎2-4 児童協内

事務局 TEL/FAX 03-3349-4744

E-mail playforchildren2011@yahoo.co.jp

HP http://www.pfc-shien.com/



- 東京メトロ丸の内線「西新宿」駅【出口2】より徒歩約6分
- 都営大江戸線「都庁前」駅【A5】より徒歩約7分
- 「新宿」駅 西口より 徒歩約15分